令和２年度　外国語部会研究主題

コミュニケーションを図る素地・基礎となる資質・能力を育む小学校外国語教育

主題設定の理由
　全面実施となる今年度より，外国語活動と教科・外国語を小学校内で接続する必要がある。外国語活動，外国語の目標，５つの領域別の目標を理解し，目標達成につながる実践を行うことで，それぞれの資質・能力を育成していきたい。

コミュニケーションを図る素地となる資質・能力とは
中学年・外国語活動で育成される資質・能力

コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力とは
高学年・外国語で育成される資質・能力

資質・能力を育成するために重要

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方
　外国語で表現し伝え合うため，外国語やその背景にある文化を，社会や世界，他者との関わりに着目して捉え，コミュニケーションを行う目的や場面，状況等に応じて，情報を整理しながら考えなどを形成し，再構築すること

知識及び技能　**思考力，判断力，表現力等**　**学びに向かう力，人間性等**

中学年・外国語活動：コミュニケーションを図る素地となる資質・能力

知識及び技能	思考力，判断力，表現力等	学びに向かう力，人間性等
外国語を通して，言語や文化について体験的に理解を深め，日本語と外国語との音声の違い等に気付くとともに，外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむようにする	身近で簡単な事柄について，外国語で聞いたり話したりして自分の考えや気持ちなどを伝え合う力の素地を養う	外国語を通して、言語やその背景にある文化に対する理解を深め，相手に配慮しながら，主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う

高学年・外国語：コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力

知識及び技能	思考力，判断力，表現力等	学びに向かう力，人間性等
外国語の音声や文字，語彙，表現，文構造，言語の働きなどについて，日本語と外国語との違いに気付き，これらの知識を理解するとともに，読むこと，書くことについて慣れ親しみ，聞くこと，読むこと，話すこと，書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付けるようにする	コミュニケーションを行う目的や場面，状況などに応じて，身近で簡単な事柄について，聞いたり話したりするとともに，音声で十分に慣れ親しんだ外国語の語彙や基本的な表現を推測しながら読んだり，語順を意識しながら書いたりして，自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる基礎的な力を養う	外国語の背景にある文化に対する理解を深め，他者に配慮しながら，主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う

＊中学年・外国語活動では「聞くこと」「話すこと（やり取り）」「話すこと（発表）」，高学年・外国語では「聞くこと」「読むこと」「話すこと（やり取り）」「話すこと（発表）」「書くこと」の活動を行い，それぞれの目標を達成させながら「知識及び技能」「思考力，判断力，表現力等」「学びに向う力，人間性等」を目指すこととなる。５つの領域別の目標については，本文ｐ２で確認のこと。

コミュニケーションを図る素地となる資質・能力を育成するために

　中学年では，初めて外国語に触れる段階であることを配慮し，外国語を通してコミュニケーションを図る楽しさや世界には様々な言語や文化があることを知る楽しさを体験を通して実感させたい

言語や文化を知る楽しさ　←→　体験　→　コミュニケーションを図る楽しさ

知りたい　聞く　話す　伝えたい

主体性　興味　自信

初めて外国語に触れることを考慮

コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成するために

　高学年では，「聞くこと」「話すこと」については定着が求められ，「読むこと」「書くこと」の内容が取り入れられる。子供が負担に感じることのないよう，一人一人の実態に応じた活動内容を考えたり，相手意識や目的意識，必然性を明確にもたせたりして，外国語を学ぶ楽しさや意義を実感させたい

聞く　話す　読む　書く

楽しさ　意義

子供の実態に応じた活動内容

相手意識
目的意識
必然性

研究内容

各校の実態に応じた年間指導計画等

魅力的な授業をするために

各校の実態に応じた年間指導計画等の作成

作成時の留意点

- ●年間を通して育てたい子どもの姿
- ●子どもの実態，地域・学校の特色
- ●滑らかにつながる配列
  前年度までの活動内容
  学年の体系的なつながり
- ●効果的な単元の工夫
  カリキュラムマネジメント

効果的

無理のない

外国語活動・外国語の目標，５つの領域別の目標に応じて各校で設定

- ・学年ごとの目標
- ・５つの領域別の学年ごとの目標
  （「CAN-DOリストの形での学習到達目標」）
- ・単元ごとの目標，内容，評価規準

目指す資質・能力を育成する授業の在り方

○　言語活動の充実

「実際に外国語を使って自分の考えや気持ちを伝え合う活動」の充実

中学年では，子供が興味・関心をもつ題材を扱い，聞く活動を十分に取り入れた上で必然性のある体験的な活動，話す活動を設定することが大切。中学年において，聞いたり話したりする活動を十分経験しておくことが高学年の言語活動の充実につながる

高学年では，子供自身が言語活動の目的や使用場面の状況を意識して活動できるよう，目的を明確にし，目的達成のために必要な語彙や基本的な表現を選択して活用できるようにする。自分の気持ちや考えをやり取りする言語活動は，単元全体を通して行うことが大切

聞く活動

興味関心

話す活動

必然性
体験的

中学年

高学年

単元を通じて

目的・場面・状況

具体的な課題

必要な言語材料

高学年

○　Small Talk

目的

① 既習表現を繰り返し使用できるようにして，その定着を図ること

② 対話の続け方を指導すること

自然なやり取り

あいさつ

繰り返し

一言感想

確かめ質問

ポイント

- ・うまく伝わらなかった言葉や表現を共有
- ・既習の言語材料から使える表現を導き出す
- ・別の言い方を考える
- ・自分の対話を振り返る
- ・相手を変え，自己調整しながら繰り返す
- ・指導者同士，指導者と子供，子供同士

○　文字を扱った活動

読む　書く

ポイント

- ・音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句，基本的な表現
- ・自分自身や友達のことなど，簡単で身近なこと
- ・目的をもって読んだり書いたりする活動
- ・英語の語順，語と語の区切り
- ・音声中心の活動の中で文字に触れる場を設定

スモールステップ

文字に親しむ工夫　**音声で十分に親しんだ語句や表現**　**必然性**

○　評価

①児童生徒の学習改善につながるものにしていくこと
②教師の指導改善につながるものにしていくこと
③これまで慣行として行われていたことでも，必要性・妥当性が認められないものは見直していくこと
『学習評価のあり方ハンドブック』

評価の観点

- ● **知識・技能**
- ● **思考・判断・表現**
- ● **主体的に学習に取り組む態度**

外国語活動では，観点に照らして，子供の学習状況に顕著な事項がある場合にその特徴を文章で記入

外国語では，各単元において観点別学習状況の評価を行い，それらを総括的に捉え，３段階の評定を行う

知識・技能

- ・英語の特徴やきまりに関する事項を理解しているか
- ・実際のコミュニケーションにおいて活用する技能を身に付けているか

思考・判断・表現

- ・コミュニケーションの目的や場面，状況に応じて既習語句や表現を使っているか
- ・話される内容を理解し，自分の考えや気持ちを表現しているか

主体的に学習に取り組む態度

- ・英語を使って自分の考えや気持ちを伝え合うことの楽しさや言葉の大切さを実感しながら粘り強く取り組んでいるか
- ・問題解決の過程を振り返り，評価・改善しようとしているか
- ・英語を使ってコミュニケーションを図ろうとする態度を身につけているか

ポイント

努力を要すると判断される状況になりそうな子供がおおむね満足できる状況になるよう指導

日頃から指導者と子供，子供同士で既習表現を使ってやり取りする場面の設定

①粘り強い取組　②自らの学習を調整

多面的多角的

方法

振り返りカードの分析，行動観察，パフォーマンス評価，作品等

接続と連携（中学年・高学年，小・小，小・中，小・中・高）

学習指導要領の下では，小中高の目標や内容の系統性が図られた。今後，小学校内では外国語活動と教科・外国語の接続がされることとなる。中学年では，活動内容がどのように高学年の教科につながるのかを意識して授業をすること，高学年では，どのような活動内容を経て今に至るのかを知った上で授業を進めるようになる。同時に，中学校との連携はこれまで以上に重要になる。小学校においては，中学校の授業内容にどのようにつながっていくのかを意識し，中学校においては，小学校でどのような内容に取り組んできているのかを理解することが必要である。まずは，近隣の小学校間で，そして地域の小・中学校間で授業参観や研究会を通して情報交換を行い，連携を進めていきたい。

研究の進め方

（１）各郡市の実態に応じ，個人または協同で研究を進める
（２）研究した内容を研究集録にまとめる
（３）夏季研修会で実践的な研究を深める　　８月５日開催

問い合わせ
徳島県小学校外国語部会
＊無断で流用することを固く禁ずる